

第1回 小山分校学校運営協議会 記録

令和8年5月19日

記録者：岩佐

1. 日時 令和8年5月19日(火) 10:00~12:00

2. 出席者

(1) 学校運営協議委員

赤塚 めぐみ 様 (常葉大学保育学部 准教授)

長田 孝代 様 (小山町住民福祉部社会福祉課 課長)

新井 昇 様 (小山町区長会長)

湯山 伸彦 様 (小山町教育委員)

草野 年男 様 (株式会社日立ハイテクアナリシス 富士小山事業所長)

米山 仁 様 (小山町企画総務部地域振興課 課長補佐兼広報公聴班長)

山口 和孝 様 (本校 PTA 会長)

(2) 本校職員

坂部 亨 (校長)

山下 智美 (副校長)

今林 美穂子 (事務長)

松浦 隆介 (部主事)

岩佐 恭平 (教務課長)

勝間田 ひな子 (共生共育推進部長)

3. 議題

(1) 校長挨拶

- ・熱心な職員、頑張る生徒、理解のある保護者、温かい地域の皆様とが連携し合いながら教育活動を推進していきたい
- ・コミュニティスクール(社会に開かれた教育課程)の実現及びより良い学校教育の展開に向けて、ぜひ忌憚のない意見をお願いしたい

(2) 任命状交付

- ・校長より委員の皆様へ交付

(3) 自己紹介

- ・委員の皆様→本校職員の順番で

(4) 議長選出

- ・小山町教育委員 湯山 伸彦 様

(5) 学校経営計画について(副校長より学校経営書に沿って説明)

- ・合言葉「いっしょけんめいになにかができる人」は本校とも通じるものである
- ・学校教育目標(目指す生徒像)「自分らしくのびやかにたくましく」
- ・具現化の柱 守る:命を守り、人権を尊重する、安全・安心に過ごせる学校
育む:主体的に、自分らしく学び合う授業が充実する学校
つなぐ:家庭・地域とともに、自立に必要なキャリア発達をつないでいく学校
- ・生徒も教員も互いを尊重し合いながら教育活動を展開していきたい

質疑・応答及び御助言、御感想等

【草野様】昨年度の反省を生かし、どのような変更をしたのか?

回答:子ども同士が関わり合い、「子どもが自分らしく育つ」という点を重点として取り組んでいきたい。

【長田様】学校経営書の「つなぐ(地域での学びと豊かな生活をつなぐ支援と発信)」という項目を考えると、社会福祉課主催の「スポーツ交流会」等のイベントを活用してもらい、絵画作品の展示への協力などを進めていきたい。

【米山様】広報の立場で分校の教育活動を地域に発信することで、共生社会の実現に向けて広く情報を発信する機会を作っていきたい。また、絵画作品を展示等で活用していきたい。

【新井様】小山町全体が一体となって共生社会の実現を推進していきたい。安全上の課題もあるが、例えば、富士山一斉清掃や登山道の清掃活動に参加してもらうのも良いかもしれない。また、学校経営計画の「命を守る」の項目の内容に、「危機管理マニュアル」に関する記載がある。災害時にマニュアルももちろん大切だが、自分の命を守れる動作がとれるように日ごろから教える・伝えるという視点も大切になる。

【山口様】親目線で捉えたときに、子どもの成長を実感している。

【湯山様】「いっしょけんめい」にはどんな思いが込められているのか?

回答:「ひとつでいい、懸命に取り組み、強みをもつ」という意味で、その場・そのときに自分の力を発揮できるようにしてほしいという思いが込められている。(御殿場特別支援学校が開校時から大切にしている考え方)

学校経営書は全会一致で承認

(6) 学部経営計画について(部主事より)

- ・小山分校キャラクター「小山ブンコ」の紹介
- ・学部目標「夢をもち 貢献し 自己実現する人」
- ・具現化の柱「守る・育む・つなぐ」の3点(学校経営書と同様)
- ・3年間の成長の見通し 1年生:基盤づくり「自分と他者を知る」
2年生:世界を広げる「集団と地域で躍動する」
3年生:社会への移行「自分で決めて動ける人へ」
※3年間を通して「自己理解・他者理解から社会参加・社会自立へ」



小山ブンコ

- ・職場実習 1年生 職場体験 3日間「知る」
2年生 職場実習 10日間・9日間「やってみる」(進路選択の幅を広げる)
3年生 職場実習 10日間・9日間「決める」(進路決定)
※「知る・やってみる・決める」を段階的に
- ・共生共育 ①地域の皆様と
作業学習を中心に地域の事業所、団体、こども園・小学校等との交流を推進
- ②小山高校と
笠陵祭、クロスカントリー大会、かるた大会等の学校行事を中心とした交流や
昼食交流を実施
- ③今年度から目指すところ「広がりと深まり」
・総合的な探究の時間等を活用し、小山高校と小山分校とが協働して長期的な
視点で地域の活性化を目指す
・令和8年度の取組として、中庭の「カフェテラス化」を実施

質疑・応答及び御助言、御感想等

【赤塚様】いろいろなことに興味のある生徒たちで「学びたい」という意欲のある生徒が多い。将来の働く生活や職業選択という部分を考えてと作業学習はとても大切だが、それ以外の趣味を広げる、人間関係を広げる等の余暇支援を学校の中でどのように取り扱っているのか？

回 答:卒業後にすぐに社会にでていくことを考えると、働く力をつけてほしいが、それだけに偏らずに生徒の知的好奇心に応えられるように、今年度より選択学習(理科・社会・外国語・書道の選択授業)に取り組んでいる。生徒の興味関心に応じて選択し、3学年の縦割グループで学習を進めている。また、本日の6校時に選択理科の生徒は、小山高校の生徒と合同で理科の授業を行う予定である。

【長田様】中庭の「カフェテラス化」を楽しみにしている。

【湯山様】中庭の「カフェテラス化」は、ぜひ実現してほしい。廊下に飾ってある絵画作品がとてもすばらしく、いろいろな人に見てもらえる機会をつくれると良い。

(7) 授業見学(作業学習 クラフト班・環境整備班・園芸班の見学)

生徒同士の関わり合い・学び合いについて

【草野様】昨年度との違いとして生徒同士での関わり合いが多くみられ、先輩後輩が関わり合い、集団として機能している様子がみられた。

【赤塚様】先輩後輩の関わり合いがみられ、3年生の優しさが影響して全体的に柔らかい雰囲気があり、1年生への助けになっていると感じた。先輩と後輩がペアで活動していて、ペアリングもうまくいっていると感じた。

【長田様】3年生の成長を感じた。後輩の存在が大きく、後輩に教えるということが成長につながっていると感じた。

【米山様】分校の存在は知っていて、絵画作品や作業製品等を見たことはあったが、実際の授業を見学し、どのような学習を経て作品や製品が完成するのかという「過程」がみられて良かった。また、教職員の生徒への関わり方や授業の進め方として、教師が一方的に教えるのではなく、教師と生徒の双方向性のものとなっていて「授業で学び合う」という様子が見られた。

【新井様】4月より入学した1年生が1か月程度でとても学校に馴染んでいると感じた。これは、日ごろの教職員の関わり方と3年生・2年生の先輩の存在が大きく影響していることを感じた。

安全対策について

【山口様】今日の作業学習の様子を見ると、長ズボンの下にジャージのハーフパンツをはいている生徒がいた。これからの時季は、気温が上がりやすくなるため、熱中症対策をした方が良いと思う。また、紫外線対策として、日焼け止めの使用、紫外線カットレンズの眼鏡着用を認める等の対応も必要かもしれない。

社会参加に向けて

【湯山様】授業の様子を見て、子どもたちの成長を感じた。社会への移行を考えると、真面目に一生懸命やることで周囲の方に認められ、認められることで手助けをしてもらえたり、見守ってもらえたりする関係となる。このような人間関係を構築できるようになってほしい。

(8) 共生共育について(共生共育推進部長より)

- ・これまでの2年間の取組としては、美術作品展示、地域資源を活用した作業学習の取組、交流活動の3つの活動を推進してきた。今後もできたつながりを大切に、見直しをしながら継続していく。
- ・今年度は、教科での学びを地域に広げていきたい。具体的には、総合的な探究の時間において、地域の歴史・防災・産業等の特色について取り扱う。
- ・職業科におけるビジネスマナーの知識・技能の向上を目指し、日立ハイテクアナリシス富士小山事業所様との連携も検討中である。

(9) コンプライアンス委員会(副校長よりコンプライアンス遵守に関する方針と具体的な取組、不祥事根絶取組計画等について説明)

- ・高校生としての関わりを大切に、特に身体接触には注意をしていきたい。また、「風通しの良い職場」を目指していきたい。

委員の皆様からの御意見、御助言等

【山口様】日ごろからの教職員と生徒との関わり方・接し方が大切である。

【新井様】SNSの取り扱いには注意が必要である。

【米山様】特別支援学校は、教師と生徒の双方向の関わりがあるため、身体接触には注意が必要である。

【長田様】職場の雰囲気づくりを大切にして進めてほしい。

【赤塚様】ハラスメント（アカデミックハラスメント等）への注意が必要である。生徒に対しては、困ったときの相談窓口を常に知らせておく必要がある。また、保護者に対しては、年度初めに、理由があって指導をしなければならない場面も存在することを知らせておくことが大切である。（指導の一場面を切り取られてしまうことが多いため、指導の過程や指導の理由等を説明できるようにしておく）

【草野様】時代の変化とともに、不祥事となる事象も異なるため、不祥事事例はタイムリーに共有しておくが良い。

【湯山様】教育現場では、ハラスメントに対する過剰な意識をもちすぎると指導・支援が成立しない状況（体育での身体接触を伴う補助ができないなど）も考えられる。教師、子ども、保護者の信頼関係を構築すること、指導の過程や理由等の説明責任を果たすことが重要となる。

〔当日の様子〕

